

## 船舶事故調査報告書

平成25年1月10日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵男（部会長）  
 委員 庄司 邦昭  
 委員 根本 美奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成23年12月18日（日） 06時00分ごろ
発生場所	鹿児島県薩摩川内市下甕島円埼付近 円埼灯台から真方位235° 125m付近 （概位 北緯31° 47.4′ 東経129° 46.9′）
事故調査の経過	平成23年12月19日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
<b>事実情報</b> 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	瀬渡船 誠豊丸、11トン KG2-195（漁船登録番号）、個人所有 13.99m (Lr) × 3.67m × 1.43m、FRP ディーゼル機関、426.59kW、平成9年7月28日
乗組員等に関する情報	船長 男性 50歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成12年8月9日 免許証交付日 平成22年9月30日 （平成27年9月29日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	舵、プロペラ翼及びプロペラシャフトに曲損、船底部に破口を伴う凹損
事故の経過	本船は、船長ほか2人が乗り組み、釣り客24人を乗せ、鹿児島県いちき串木野市串木野港を出港し、途中の岩場で乗組員1人と釣り客6人を降ろした後、平成23年12月18日05時40分ごろ下甕島北端の円埼付近に到着した。 船長は、本船操舵室上方のフライングブリッジにある操縦席に腰を掛けて操縦に当たり、円埼付近の岩場に釣り客5人を降ろす予定で接近し、釣り客が準備を終えたという合図が乗組員から送られてくるのを待ったが、釣り客の荷物1個が見付からなかったため、岩場から離れて漂泊した。 船長は、釣り客を降ろす予定の岩場から離れた後も、荷物が見付からず、いっこうに合図が送られて来ないので、フライングブリッジから甲板を見下ろして自らも荷物探しを行っていたところ、乗組員から

	<p>荷物があつたとの報告を受け、再度、岩場に接近しようとして操縦席に座った直後、本船は、06時00分ごろ円埼付近の浅瀬（以下「本件浅瀬」という。）に乗り揚げた。</p> <p>船長は、本船が傾いてきて転覆の危険を感じ、機関を使って離礁して沖出ししたものの、舵の損傷により航行できないので、機関を微速力前進にかけて円埼付近の海岸の波のないところに任意座礁させ、釣り客等を上陸させるとともに、ロープ等を用いて船固めを行った。</p> <p>本船は、08時40分ごろ仲間の瀬渡船により引き降ろされ、下甑島<sup>かしま</sup>鹿島港にえい航された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴、風向 北西、風速 約7m/s、視界 良好</p> <p>海象：うねりの方向 北西、波高 約1.5m、潮汐 下げ潮の末期、潮高 約100cm（鹿児島県薩摩川内市上甑島<sup>かみこしき</sup>浦内湾）</p> <p>日出時刻：07時14分</p>
その他の事項	<p>本船の喫水は、船首約0.6m、船尾約1.0mであった。</p> <p>乗組員及び釣り客は、全員が救命胴衣を着用していた。</p> <p>船長は、漁業に従事して円埼付近で操業した経験が数多くあり、円埼付近の浅瀬の位置を熟知していた。</p> <p>船長によれば、海象は、前日のうねりが残っていたものの、この時期としては比較的平穏であった。</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、円埼付近の岩場に釣り客を降ろす際、釣り客の荷物が見付からなくて漂泊中、船長が荷物探しを行っていたことから、風や波に圧流されて本件浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、本船が、円埼付近の岩場に釣り客を降ろす際、釣り客の荷物が見付からなくて漂泊中、船長が荷物探しを行っていたため、風や波に圧流されて本件浅瀬に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬渡し作業の役割分担を明確にし、操船者は操船に専念すること。</li> <li>・瀬渡しのために岩場に接近した際は、継続的に船位確認を行うこと。</li> </ul>